

<感染症マニュアル>

【感染症とは】

ウィルスや細菌などの病原体が体内に侵入して増殖し体に発熱・下痢・嘔吐などの異変をもたらすこと。

【感染症対策のポイント】

保護者
医療機関との連携  二次感染の防止策

【体調不良への対応手順】



* 発熱

サービス提供中の症状確認

- ・ぐったりしている ・ボーっとして呼びかけに応じない
- ・機嫌が悪い ・顔が赤い

緊急受診の判断基準

- ・発熱の場合、併存症状（同時に発症した症状）で連絡すべきか判断する。

保護者に報告と対応相談

- ・連絡を取る際は、体温の推移と併存症状の様子を具体的に伝え、お迎えを依頼する。または、自宅まで送迎する。

水分補給

- ・少しずつ水分を与える。この際、効率的に補給するために塩分を含む水や経口補給液が望ましい。

着替え

- ・汗で体を冷やささないよう、可能であれば着替えをさせる。

* 腹痛

医療機関への救急搬送の基準

- ・以下のような症状を伴っている場合、緊急受診を検討する。
医療機関には併存症状やその程度を伝える。

1. 高熱
2. 嘔吐
3. 下痢
4. 血便
5. おなかが張っている
6. おなかの痛さで歩けない
7. 股の付け根が腫れている
8. 脚を縮めて泣き止まない。または間隔を置いて泣き続ける。

水分補給

- ・腹痛が軽い場合は、経口補水液などの水分を少しずつ飲ませて様子を見る。
- ・嘔吐をしている際は、吐き戻す可能性があるので無理のない範囲で与える。

NG行為

- ・おなかに炎症があるときは悪化させる可能性があるためカイロや湯たんぽなどでおなかを温めないようにする。

* 嘔吐

救急搬送の条件

- 以下のような症状が伴っている場合、緊急受診を検討する。
 1. とても機嫌が悪く急に泣くことを繰り返す。
 2. 熱があり、顔色が悪い。
 3. 下痢を繰り返す。
 4. 頭を打った後に嘔吐し、何度も繰り返す。
 5. 水分をとることがつらい。

水分補給

- 脱衣症状を防ぐため、15～30分程度を目安に水分補給
- 吐いたものを詰まらせないように、寝ているときは体を横に向ける。
- 適切な嘔吐処理を行う。

NG行為

嘔吐してすぐに水分を与えると、吐き戻す可能性がある。

医療機関に引き継ぐ際のメモ項目

- 嘔吐した回数
- 機嫌はどうか
- 腹痛はあるか
- 食欲はあるか
- 頭痛はあるか
- 下痢はあるか
- 熱はあるか

* 下痢

救急搬送の条件

- 下痢が激しく水分を受け付けない。
- 高熱や血便がある。
- 嘔吐も繰り返す。
- 便が全体的に白、赤黒、赤の時

水分補給

- 脱衣症状を防ぐため、15～30分程度を目安に水分補給。
- 一回量を少なく、回数を多くする。

NG行為

- 汚れた衣服は二次感染が広まる可能性がある。
しっかり袋で包んで処理し、後には手洗いと消毒を徹底する。

医療機関に引き継ぐ際のメモ項目

- 下痢が激しく水分を受け付けない
- 高熱を出している
- 激しい嘔吐がある
- 便の色が赤、赤黒、白色をしていたり血が混じっていたりする

* 対処後の流れ

消毒

嘔吐物、排泄物は素早く廃棄し、触れた箇所の消毒を徹底する。

記録

感染症が流行したら自治体との情報共有ができるよう、「症状」「日時」「とった対応」をメモしておく。

* 対処後の処理

感染症発生時の報告基準

- 事業所内で感染症が発生し、下記の報告基準がどれかに該当する場合
所管の保健所や自治体の受給者窓口への報告が必要な可能性がある。
1. 同一の感染症若しくは食中毒による又はそれらによると疑われる死亡者又は重篤患者（症状が非常に重い、危篤状態の患者）が1週間以内に2名以上発生した場合。
 2. 同一の感染症若しくは食中毒の患者又はそれらが疑われる者が10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合。
 3. 1及び2に該当しない場合であっても、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合。